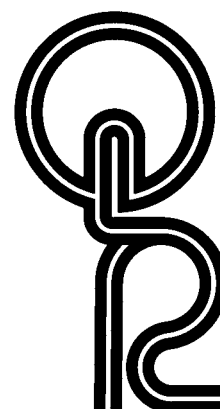


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 28 No.4, 2021



大阪市浪速区幸町大正橋東詰の大地震両川口津浪記。1854年安政南海地震の地震・津波の被害状況が碑文に記され、1707年宝永地震と同様に多くの犠牲者が出たとし、ここに記録しておくので墨入れをして伝えてほしいとされる。毎年、周辺住民による墨入れが行われている。(撮影：三田村宗樹)

Vol. 28 No. 4

August 1, 2021

総会と評議員会のお知らせ..... 2	評議員会議事録..... 8
2021年大会案内(第6報)..... 2	執行部会議事録.....11
学会賞等受賞者決定..... 7	会員消息..... 12

◆日本第四紀学会 2021 年度総会及び第 1 回評議員会のお知らせ

日本第四紀学会 2021 年大会期間中の 8 月 28 日（土）15:30～17:30 に、日本第四紀学会 2021 年総会を Zoom を用いたオンラインで開催します。会員の皆様には、ご参加をお願いします。大会への参加登録がまだの方は、大会専用サイト (<https://sites.google.com/view/2021jaqua/>) から申し込んでください。また、大会・総会に参加されない正会員の方は、大会専用サイトから委任状の提出をお願いします。委任する場合は、総会議長または総会に出席される正会員へ委任してください。なお、総会議長への委任を除き、個人の正会員へ委任される場合には、出席される正会員 1 名につき、欠席される正会員 1 名分しか委任を受けることができませんので、事前に委任者にご確認ください。参加登録及び委任状提出の締め切りは 8 月 20 日（金）17 時です。

総会に引き続いて、2021 年の学会賞・論文賞などの受賞者の方のオンライン授賞式を行いますので、こちらへもご参加をお願いします。

総会資料は、8 月 25 日頃までに、会員マイページ (<https://mypage.sasj2.net/site/jaqua>) 内に掲載する予定です。会員マイページへは、会員番号(会誌が入った封筒の会員宛名の下にある 10 桁の数字)とパスワードを入力してログインしてください。

2021 年度第 1 回評議員会は、大会前の 8 月 25 日頃にオンラインでの開催を予定しています。評議員会メンバー並びに会長経験者・名誉会員の方には日時が決まりましたら、あらためてご連絡いたします。

◆日本第四紀学会 2021 年大会案内（第 6 報）

本大会は、新型コロナウイルス感染対策のためオンラインで実施することとなりました。大会の準備と開催は大会実行委員会と行事委員会が連携して行います。

1. 大会概要と参加申し込みメ切り

開催期間：2021 年 8 月 27 日（金）～8 月 29 日（日）

8 月 27 日（金）一般研究発表（口頭およびポスター）

8 月 28 日（土）一般研究発表（口頭およびポスター）、総会・各賞授賞式

8 月 29 日（日）午前：公開シンポジウム、オンライン巡検説明

午後：2020 年学術賞受賞記念講演

参加申し込み締め切り 8 月 20 日（金）17 時

プログラム公開 7 月 30 日（金）（予定）

一般研究発表申し込みについてはメ切りました。

2. 大会開催方法

大会はすべてオンラインで行います。

3. 大会参加申し込み方法

参加申し込みは、大会専用サイト (<https://sites.google.com/view/2021jaqua/>) から申し込んで下さい。

4. 大会・巡検の参加費

無料

5. 総会委任状について

8 月 28 日（土）午後で開催する総会の委任状も大会専用サイトから提出できます。総会欠席予定の会

員の皆様には、総会委任状の提出をお願いします。

6. 開催日程 2021年8月27日（金）～8月29日（日）

8月27日（金）

- 10:00～10:10 事務アナウンス
- 10:10～10:15 開会挨拶（会長）
- 10:15～11:45 口頭発表 AM1
- 11:45～12:10 ポスターショートトーク
- 昼休み
- 13:00～14:30 ポスターコアタイム
- 14:30～15:45 口頭発表 PM1
- 16:00～17:30 口頭発表 PM2

8月28日（土）

- 9:55～10:00 事務アナウンス
- 10:00～11:45 口頭 AM1
- 11:45～12:10 ポスターショートトーク
- 昼休み
- 13:00～14:30 ポスターコアタイム
- 14:30～15:30 口頭 PM1
- 15:30～17:30 日本第四紀学会総会・授賞式

8月29日（日）

- 9:55～10:00 事務アナウンス
- 10:00～12:15 公開シンポジウム「近畿における歴史時代の自然環境」
- 12:15～12:30 オンライン巡検「大阪の津波碑と地盤沈下地帯」説明
- 昼休み
- 13:30～14:20 2020年学術賞受賞記念講演
- 14:20～14:30 閉会挨拶

7. 発表要領

【口頭発表】

- ・口頭発表は Zoom によるリアルタイムの講演となります。
- ・発表時間は質疑を含んで 15 分となります。発表時間の厳守をお願いいたします。
- ・各発表の日時については、下記の一般研究発表のプログラムをご確認下さい。

【ポスター発表】

- ・事前登録した PDF 形式の画像を 27・28 日を通じてオンライン上に掲載するとともに、発表コアタイムの時間には Zoom のブレイクアウトルームでの発表となります。
- ・各ポスター発表のコアタイムは 27 日 13:00～14:30、28 日 13:00～14:30 のいずれかです。コアタイムにはブレイクアウトルームにお入りください。
- ・ポスターショートトークを 27 日 11:45～12:10、28 日 11:45～12:10 に設定しています。2 分程度でポスター内容を簡単に紹介して下さい。
- ・各発表のコアタイムとショートトークの日時については、下記の一般研究発表のプログラムをご確認下さい。

8. 一般研究発表

プログラムは当日までに若干の修正の可能性があります。要旨集のプログラムを確認してください。

【口頭発表】（★：学生発表賞エントリー者 ☆：若手発表賞エントリー者）

8月27日（金）

10:15～11:45（27-AM1）

2021年大会案内

- O-01 海部陽介・郭 天俠・久保田好美・詹 森 漂流か航海か？ 漂流ブイデータによる後期旧石器時代の海洋進出についての検討
- O-02 中村由克・飯塚義之 透閃石ネフライト製塊状耳飾の再評価：アジア大陸渡来品の可能性
- O-03 鹿島 薫・福本 侑・Timo SAARINEN..... フィンランドの年縞湖沼における珪藻・黄金色藻遺骸群集の変動を用いた過去 750 年間の洪水頻度復元
- O-04 佐野 亘・藤田和彦・横山祐典・宮入陽介・平林頌子・中野義勝・磯村尚子・菅 浩伸 大型底生有孔虫を用いた完新世における海草藻場環境の復元 (★)
- O-05 野口真利江・宮本 樹・須貝俊彦・中西利典・小松哲也・杉中佑輔・遠藤邦彦 関東平野中央部、猿島台地～宝木台地の珪藻分析に基づく古環境復元 (☆)
- O-06 竹本仁美・松多信尚 長野県神城盆地における AT 火山灰降下以降の古環境復元 (☆)

14:30～15:45 (27-PM1)

- O-07 岩寄廣大・金 幸隆・河村善也・張 鈞翔・三田村宗樹 台湾西南部菜寮地域に分布する段丘構成層の再検討 (★)
- O-08 荻谷愛彦・栗本享宥 北八ヶ岳大月川岩屑なだれ：堆積物の層序と年代の再検討
- O-09 中条武司・積山 洋・白井翔太郎 大阪海岸平野、難波御蔵跡・船出遺跡における堤間低地の埋積過程
- O-10 平峰玲緒奈・青木かおり・石村大輔 青森県むつ市関根浜における漂着軽石の運搬・堆積過程(★)
- O-11 里口保文・林 竜馬・加 三千宣・芳賀裕樹 琵琶湖南湖の表層堆積物の面的変化

16:00～17:30 (27-PM2)

- O-12 青木かおり・小林 淳・村田昌則・鈴木毅彦 房総沖海底掘削コア C9010E に介在するスコリア層の給源火山推定
- O-13 遠藤邦彦・須貝俊彦・石綿しげ子・鈴木正章・杉中佑輔・近藤玲介・隅田まり・藤根 久・植村杏太・中尾有利子・野口真利江・関本勝久・大里重人・堀 伸三郎・中山俊雄・竹村貴人 武蔵野台地北東部で発見された中・後期更新世テフラ群とその意義
- O-14 小松原 琢 近畿三角地帯における盆地の北移動の原因について
- O-15 菊地悠斗・百瀬年彦・柳井清治・鷹澤好博 カリ長石の IRSL を用いた断層活動の評価 (☆)
- O-16 白濱吉起・宮入陽介・横山祐典・阿部恒平 表面照射年代測定を用いた足摺岬における隆起ベントの編年 (☆)
- O-17 金 幸隆・吉田大介・根本達也・原口 強 ドローン写真測量による串本袋港周辺の波蝕棚と海食台の形成水深

8月28日(土)

10:00～11:45 (28-AM1)

- O-18 林 辰弥・李 さらん・山中寿朗・佐藤雅彦・桑原義博・大野正夫 大西洋子午面循環の発達と氷期-間氷期サイクルの開始
- O-19 根本夏林・横山祐典・Adam Sproson・宮入陽介・阿瀬貴博・松崎浩之・Yair Rosenthal・Samantha Bova..... 宇宙線生成核種 ^{10}Be を用いた南東太平洋(チリ沖)における完新世の古気候復元 (★)
- O-20 兵頭政幸・中川 毅・松下隼人・北場育子・山田圭太郎・ブラダックバラージュ・三木雅子・リチャード A. スタッフ・ダニエルマクリン・ヴィクトリア C. スミス・ポール G. アルバート・クリストファーブロンクラムジー・山崎彬輝・北川淳子・水月湖 2014 プロジェクトメンバー 水月湖年縞堆積物におけるラシャン地磁気エクスカージョンの発見とその年代学的、層序学的意義
- O-21 奥野 充・藤木利之・酒井恵祐・森脇 広・河合 溪・中村俊夫 クック諸島・ラロトンガ島カレカレ湿原から採取したコア試料 Karekare 19-2 の層序と AMS ^{14}C 年代
- O-22 長橋良隆・片岡香子・難波謙二 猪苗代湖の湖底堆積物に記録された大気圏内核実験と福島第一原子力発電所事故由来の放射性セシウム濃度の鉛直プロファイル
- O-23 林崎 涼 pIRIR 法による最終間氷期の砂質・泥質堆積物の年代測定 (☆)
- O-24 久保純子・松本誠子・鈴木瑞穂・千葉達朗・熊原康博・岩佐佳哉・貞方 昇 太田川下流平野・

デルタの微地形および「最上部陸成層」と上流域における砂鉄採取（鉄穴流し）の関係

14:30～15:30 (28-PM1)

- O-25 石村大輔・山田圭太郎 高密度掘削試料に基づく津波堆積物とその分布：岩手県山田町小谷島を例に
- O-26 藤原 治・太田耕輔 静岡県浜松市南東部の米津池跡で見られる1498年明応津波の痕跡
- O-27 亀井 翼 古墳時代の地表面高度：茨城県土浦市后塚古墳の墳丘に認められた古土壌から (☆)
- O-28 原口 強 上高地の成立ちを踏まえた河床上昇緩和戦略

【ポスター発表ショートトーク・コアタイム】(★:学生発表賞エントリー者 ☆:若手発表賞エントリー者)
8月27日(金) 11:45～12:10(ショートトーク) 13:00～14:30(コアタイム)

- P-01 河村 愛・河村善也 本州西部の化石群集から見た中期更新世以降の小型哺乳類の絶滅 (☆)
- P-02 中谷是崇・西山賢一・中尾賢一・佐藤善輝・羽田裕貴・鈴木克明・水野清秀・中島 礼 徳島市中徳島町で掘削された第四系ボーリングコアの層序学的検討 (☆)
- P-03 佐藤善輝・小野映介・小岩直人・高橋未央 青森平野中央部における沖積層の堆積過程
- P-04 西澤文勝・石浜佐栄子・田口公則 伊勢原市西富岡・向畑遺跡における植物遺骸多産層の産状
- P-05 近藤玲介・高場智博・西内李佳・植村杏太・長井雅史・宮入陽介・横山祐典・坂本竜彦 福江島山内盆地における中期更新世以降の層序・発達史・大型植物化石群 (予報)
- P-06 高橋尚志・須貝俊彦 2017年九州北部豪雨に伴う河川地形変化と更新世末期以降の筑後川支流の段丘発達 (☆)
- P-07 杉中佑輔・遠藤邦彦・石綿しげ子・隅田まり・須貝俊彦・鈴木正章・堀 伸三郎・野口真利江・竹村貴人・中山俊雄 武蔵野台地北東部における地下構造と中後期更新統の古地形面の空間展開
- P-08 太田耕輔・藤原 治・Stephen Obrochta・宮入陽介・横山祐典 静岡県相良低地で掘削したコア試料の分析に基づく完新世中期の環境変化の復元 (★)
- P-09 渡辺 樹・鈴木毅彦・石村大輔 伊豆半島南部、蛇石大池湿原で得られた蛇石 (JIS) コアを対象にした連続的な分析による降下テフラ検出の試み (★)
- P-10 常岡 廉・横山祐典・太田耕輔・宮入陽介・近藤玲介・横地 穰・金子和広・井上 京・紀藤典夫・植村杏太・隅田まり・百原 新・富士田 裕 北海道東部、根釧台地上の小規模湿原における完新世の堆積環境の変遷 (★)
- P-11 設楽拓人・福井俊介・松井哲哉・百原 新・津山幾太郎・大橋春香・田中伸行・上條隆志 種分布モデリングによる最終氷期最盛期以降のチョウセンゴヨウの分布変遷に影響を与えた気候要因の推定 (☆)

8月28日(土) 11:45～12:10(ショートトーク) 13:00～14:30(コアタイム)

- P-12 佐々木夏来・須貝俊彦 仙岩火山地域南部における火山原面上の湿地形成場と変動地形及び重力変形地形
- P-13 白井正明・小林 淳・河尻清和・宇津川喬子 富士相模川ラハールと猿橋溶岩の流下に対する桂川(相模川)の応答
- P-14 上原克人・嘉村拓海 大阪湾にて観測された数十年スケールの潮汐弱体化と海岸線の人為的改変
- P-15 原口 強・今野哲嗣・岩松 暉 樹木に覆われたシラス危険斜面の地形画像診断
- P-16 レゲット佳・横山祐典・宮入陽介・太田耕輔・福與直人・白濱吉起 カンザシゴカイ類を用いた東北太平洋表層海水の $\Delta^{14}\text{C}$ 高精度復元 (★)
- P-17 Stephen Obrochta・Szilard Fazekas・Jan Moren..... A portable system for acquisition of low-distortion sediment core images using computer vision and deep learning for post-processing
- P-18 中西 諒・芦 寿一郎・横山祐典・宮入陽介 イベント層認定における海岸発達史復元の重要性～北海道日高海岸の例～ (★)
- P-19 須貝俊彦・メルゲンクンガ・佐々木夏来 2018年西日本豪雨による広島県黒瀬町・坂町における崩壊土砂イベントとその人新世における地形発達史的意味
- P-20 平林頌子・横山祐典・鈴木 淳・宮入陽介・阿瀬貴博・シリガンフェルナンド・前田保夫 サンゴ骨格中の放射性炭素から探る黒潮変動 (☆)

- P-21 川村教一・伊藤拓海 兵庫県美方郡新温泉町のタフォニから産する石葉の同定
P-22 小岩直人・山仁隆司 久米島東部におけるマイクロアトールの地形計測と空間分布

9. 公開シンポジウム「近畿における歴史時代の自然環境」

人類誕生から現在まで、自然環境や自然資源は時代により様々な用途や目的に人類によって利用されてきました。こうした中で、歴史時代は自然環境に人類が大きく影響を与える以前と都市文明が発達した現代の間に位置し、自然利用や自然改変の規模・利用法が大きく変化した時代にあたります。本シンポジウムでは、古くから政治や文化の中心であった近畿地方の歴史時代の遺跡などの資料を中心に、地形や地質などを含めた自然環境や自然資源を人々がどのように利用してきたのか、またそれぞれの時代の自然環境などについて様々な視点から紹介したいと思います。

8月29日(日) 10:00～12:15

- S-01 大阪府淀川低地にみられる河川配置と古代の耕地開発 別所秀高(公益財団法人東大阪市文化振興協会)
S-02 遺跡の花粉分析データからみた奈良県北部の植生変遷 上中央子(日本学術振興会特別研究員RPD・奈良文化財研究所)
S-03 滋賀県の遺跡花粉データベースからみる地域・集落スケール植生景観の変遷史 林 竜馬(琵琶湖博物館)
S-04 遺跡出土木製品からみた歴史時代の木材利用 村上由美子(京都大学総合博物館)
S-05 考古遺跡からみえる動物利用の変遷 丸山真史(東海大学)
S-06 累積性土壌の植物珪酸体と微粒炭から見た近畿地方の草原と山焼きの歴史 林 尚輝・井上 淳(大阪市立大学)
S-07 大阪城本丸地区の自然地盤と盛土地盤 三田村宗樹(大阪市立大学)

10. オンライン巡検「大阪の津波碑と地盤沈下地帯」説明

8月29日(日) 12:15～12:30

公開シンポジウム終了後に、オンライン巡検について簡単に説明します。

案内者：三田村宗樹(大阪市立大学)

見学内容：大阪を代表する繁華街の一つ道頓堀から、淀川河口の一つ木津川を経て大阪市大正区・港区をめぐる。安政南海地震津波に関わる大地震両川口津浪記、防潮堤、防潮水門、地盤かさ上げなどの地盤沈下対策やデルタの街ならではの渡し船などを紹介します。

本巡検は巡検案内者が野外で巡検箇所の撮影と説明を行い、その動画をWebサイトで配信する形で実施します。そのため、特別に巡検参加の申し込みをしていただく必要はありません。この巡検動画は、2021年大会開催日から9月30日まで配信し、どなたでも参加いただけます。配信のサイトのURLは、大会専用サイトで告知します。

11. 2020年学術賞受賞記念講演

8月29日(日) 13:30～14:20

北村晃寿：貝化石・有孔虫化石の複合群集解析による日本本島の島嶼化過程および東海地震の履歴の研究

大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：三田村宗樹(大阪市立大)

実行委員：井上 淳(大阪市立大)、中条武司・石井陽子(以上、大阪市立自然史博物館)、久保田好美・齋藤めぐみ(以上、国立科学博物館)

行事委員会：藤原 治(産総研)、池原 実(高知大)、井上 淳(大阪市立大学)、岡田 誠(茨城大)、目代邦康(東北学院大)

連絡先：2021年大会実行委員会事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学大学院理学研究科 三田村宗樹
TEL：06-6605-2592、メール：mitamura(at)osaka-cu.ac.jp

大会での一般発表・参加など大会全般に関するお問い合わせは jaqua2021_online_meeting(at)googlegroups.com へ、シンポジウム・巡検に関するお問い合わせは jaqua2021(at)gmail.com へ、それぞれお願いします。

◆ 2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞・若手学術賞、論文賞・奨励賞受賞者決定

日本第四紀学会では、学会賞、学術賞、若手学術賞、論文賞、奨励賞を設け、顕彰を行っております。2021年の各賞の選考が行われ、受賞者が決定されましたので報告致します。

学会賞は第四紀学の発展に貢献した顕著な業績を有し、また日本第四紀学会の活動に著しい貢献があった正会員に授与される、学会における最高の賞です。学術賞は第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与されます。若手学術賞は、国際誌等を通じて第四紀学に貢献した優れた論文を発表した若手会員（選考が行われる当該年の4月1日時点で39歳以下の会員）に授与される賞です。会員から各賞の受賞者候補者の推薦・立候補を受け付け、2021年2月28日をもって締め切られました。その後、学会賞選考委員会（齋藤文紀委員長、長橋良隆副委員長、遠藤邦彦委員、小野昭委員、山崎晴雄委員）によって学会賞1名、学術賞3名と若手学術賞2名の受賞候補者が推薦され、6月28日に行われた評議員会において、下記の通り受賞者が決定されました。

●日本第四紀学会学会賞

受賞者：川幡穂高会員

受賞件名：「海洋コアを用いた古海洋・古気候・古環境に関する一連の研究」

●日本第四紀学会学術賞

受賞者：中塚 武会員

受賞件名：「樹木年輪の安定同位体比分析を用いた気候変動等の研究」

受賞者：岡田 誠会員

受賞件名：「房総半島の海成第四系を中心とした古地磁気層序に関する一連の研究」

受賞者：田村糸子会員

受賞件名：「中部日本における鮮新世から中期更新世のテフラ対比に関する研究」

●日本第四紀学会若手学術賞

受賞者：石村大輔会員

受賞論文1

題名：「3D surface displacement and surface ruptures associated with the 2014 Mw6.2 Nagano earthquake using differential Lidar」

雑誌名：Bulletin of the Seismological Society of America, 109, 780–796.

<https://doi.org/10.1785/0120180020>

著者：Daisuke Ishimura, Shinji Toda, Sakae Mukoyama, Shin'ichi Homma, Kyoko Yamaguchi and Naoya Takahashi

受賞論文2

題名：「Palaeo-tsunami inundation distances deduced from roundness of gravel particles in tsunami deposits」

雑誌名：Scientific Reports, 9, 10251. <https://doi.org/10.1038/s41598-019-46584-z>

著者：Daisuke Ishimura and Keitaro Yamada

受賞論文3

題名：「Proximal-distal fall deposit correlation of VEI-5 tephra (Towada-Chuseri) from Towada volcano, northeast Japan」

雑誌名：Journal of Quaternary Science, 35, 334–348. <https://doi.org/10.1002/jqs.3161>

著者：Daisuke Ishimura and Reona Hiramine

受賞者：石澤堯史会員

受賞論文1

題名：「Non-destructive analyses to determine appropriate stratigraphic level for dating of tsunami deposits」

雑誌名：Marine Geology, 412, 19–26. <https://doi.org/10.1016/j.margeo.2019.02.009>

著者：Takashi Ishizawa, Kazuhisa Goto, Yusuke Yokoyama and Yosuke Miyairi

受賞論文2

題名：「Dating tsunami deposits: Present knowledge and challenges」

雑誌名：Earth-Science Reviews, 200, 102971. <https://doi.org/10.1016/j.earscirev.2019.102971>

著者：Takashi Ishizawa, Kazuhisa Goto, Yusuke Yokoyama and James Goff

論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載された第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を公表した会員を含む著者に授与されるもので、とくに奨励賞は若手研究者（会員）の育成と研究奨励に寄与することを目的としています。会員から候補者（候補論文）の推薦・立候補を受け付け、2月28日をもって締め切られました。その後、論文賞選考委員会（百原 新委員長、奥野淳一委員、高田将志委員、箱崎真隆委員、山田和芳委員）によって、論文賞候補論文1編および奨励賞候補論文2編が推薦され、6月28日に行われた評議員会において、下記の通り受賞者が決定されました。

●日本第四紀学会論文賞

受賞論文題目：武蔵野台地の新たな地形区分. 第四紀研究、第58巻、6号、353–375, 2019

著者名：遠藤邦彦・千葉達朗・杉中佑輔・須貝俊彦・鈴木毅彦・上杉 陽・石綿しげ子・中山俊雄・舟津太郎・大里重人・鈴木正章・野口真利江・佐藤明夫・近藤玲介・堀 伸三郎

●日本第四紀学会奨励賞

受賞者：平林頌子会員

受賞対象論文：完新統 / 完新世の細分と気候変動. 第四紀研究、第59巻、6号、129–157, 2020

著者名：平林頌子・横山祐典

受賞者：中村淳路会員

受賞対象論文：北海道霧多布湿原一番沢における津波堆積物の分布. 第四紀研究、第58巻、4号、303–312, 2019

著者名：中村淳路・澤井祐紀・松本 弾・谷川晃一朗・伊尾木圭衣

各受賞者の表彰式は、8月28日（土）にオンラインで開催される日本第四紀学会大会総会後に行われます。受賞理由等の詳細は、総会及び表彰式において報告されるとともに、次号の第四紀通信にてお伝えします。また学会賞・学術賞受賞者による記念講演会も後日企画予定です。

◆日本第四紀学会 2020 年度第 3 回評議員会議事録

日時：2021年6月28日（月） 13:00～14:10
方法：Zoom システムを用いたオンライン会議

出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、
高原 光（副会長）、以下評議員：兵頭政

幸（議長）、池原 研、池原 実、横山祐典、奥村晃史、片岡香子、荻谷愛彦、宍倉正展、白井正明、須貝俊彦、丹羽雄一、藤原 治、三浦英樹、青木かおり、卜部厚志、岡田 誠、水野清秀、出穂雅実、江口誠一、北村晃寿、工藤雄一郎、近藤 恵、齋藤めぐみ、百原 新、小荒井 衛、竹村恵二、山田和芳、米澤正弘（以上、31名）

委任状：6通（議長委任）

オブザーバー：小野 昭（名誉会員）、吾妻 崇（庶務委員会）

藤原 治行事委員長の開会の辞、齋藤文紀会長の挨拶に続き、定足数の確認が行われ、兵頭政幸議長により議事が進められた。議事終了後、兵頭議長から退任の挨拶、高原 光副会長の挨拶をもって閉会となった。

(1) 2021年論文賞・奨励賞の受賞者・受賞論文の決定

論文賞選考委員会（百原 新委員長、奥野淳一委員、高田将志委員、箱崎真隆委員、山田和芳委員）では、2019年、2020年の第四紀研究（58巻、59巻）に発表された論文賞対象論文32編、奨励賞対象論文5編について選考が行われ、4月13日のオンライン会議にて論文賞候補1編、奨励賞候補2編（2名）が決定された。受賞候補者・利益相反となる関係者の一時退席のうえで、百原選考委員長から経過や推薦理由の説明を受けたのち、審議を行い、下記受賞論文・受賞者を確定した。

- 2021年日本第四紀学会論文賞
著者・受賞者名：遠藤邦彦・千葉達朗・杉中佑輔・須貝俊彦・鈴木毅彦・上杉 陽・石綿しげ子・中山俊雄・舟津太郎・大里重人・鈴木正章・野口真利江・佐藤明夫・近藤玲介・堀 伸三郎（各会員）
対象論文：武蔵野台地の新たな地形区分。
第四紀研究 58巻6号, 353-375 ページ, 2019年

（以下アルファベット順）

- 2021年日本第四紀学会奨励賞1
受賞者名：平林頌子会員
対象論文：平林頌子・横山祐典
完新統 / 完新世の細分と気候変動。
第四紀研究 59巻6号, 129-157 ページ, 2020年
- 2021年日本第四紀学会奨励賞2
受賞者名：中村淳路会員

対象論文：中村淳路・澤井祐紀・松本 弾・谷川晃一朗・伊尾木圭衣
北海道霧多布湿原一番沢における津波堆積物の分布。
第四紀研究 58巻4号, 303-312 ページ, 2019年

なお、論文賞選考委員会からは、論文賞受賞論文の筆頭著者が35才以下の場合に、若手学術賞や奨励賞と同様に副賞を授与するべきであるなどの指摘があった。非会員の論文も論文賞の対象とするか、ほかの賞に対しても若手会員への副賞を授与すべきかを含め、顕彰規程などの改訂を早急に検討することにした。

(2) 2021年学会賞・学術賞・若手学術賞受賞者の決定

学会賞選考委員会（齋藤文紀委員長、長橋良隆副委員長、遠藤邦彦委員、小野 昭委員、山崎晴雄委員）では、推薦があった候補者について選考を行い、5月13日と17日にオンライン会議を開催し、学会賞候補者1名、学術賞候補者3名、若手学術賞候補者2名が決定された。受賞候補者の一時退席の上で、齋藤選考委員長から経過や推薦理由の説明を受けたのち、審議を行い、下記受賞者を確定した。

- 2021年日本第四紀学会学会賞
受賞者名：川幡穂高会員
受賞件名：海洋コアを用いた古海洋・古気候・古環境に関する一連の研究
- （以下アルファベット順）
- 2021年日本第四紀学会学術賞1
受賞者名：中塚 武会員
受賞件名：樹木年輪の安定同位体比分析を用いた気候変動等の研究
- 2021年日本第四紀学会学術賞2
受賞者名：岡田 誠会員
受賞件名：房総半島の海成第四系を中心とした古地磁気層序に関する一連の研究
- 2021年日本第四紀学会学術賞3
受賞者名：田村糸子会員
受賞件名：中部日本における鮮新世から中期更新世のテフラ対比に関する研究
- 2021年日本第四紀学会若手学術賞1
受賞者名：石村大輔会員
- 2021年日本第四紀学会若手学術賞2
受賞者名：石澤堯史会員

(3) オンライン委員会（特別委員会）の設置

新型コロナウイルス感染症の影響等で、オンラインによる web 上での会議や参加登録、委任状提出、講演要旨提出と閲覧などの必要性が増しており、そのほかの会員サービスに対しても IT 化を進める必要があることから、オンライン委員会を期間限定（2021～2022 年度）で設置し、執行部会、関連する委員会、領域などと連携してオンライン等に関する支援を行う提案が水野清秀庶務委員長からなされた。下記内規案が示され、審議の結果、オンライン委員会の設置が承認された。なお、今後の情勢を見極めながら、会議担当の常設委員会を新たに作る、あるいは常設委員会等の役割分担を見直すなどの検討を進めていくこととした。

日本第四紀学会 オンライン委員会内規
(2021 年 6 月 28 日、評議員会にて決定)

[目的]

1. 本会が実施するオンラインによる会議・講演会などの運営や会員サービスの IT 化等の推進を支援するため、日本第四紀学会会則第 17 条 3 に基づき、本会に特別委員会のオンライン委員会を設置する。

[期間]

2. 本委員会の設置期間は、2021 年 8 月 1 日から 2023 年 7 月 31 日までとする。また、委員の任期も同じとする。

[委員会の構成]

3. 本委員会は、評議員の中から選出された委員長と、正会員の委員からなり、委員数を 5 名程度とする。

[活動内容]

4. 本委員会は以下の内容を含めた活動を行う。
 - (1) オンライン会議・講演会等に必要なアプリケーションソフト、システムなどの管理。
 - (2) オンライン会議・講演会、IT 化推進等に関する執行部会、常設委員会、大会実行委員会、領域などの活動の支援。
 - (3) オンラインシステム等に関する情報の収集と整理。

[会議の出席権限]

5. 本委員会の委員は、評議員会及び執行部会にオブザーバーとして出席することができる。

(4) 2021～2022 年度における執行部会等の体制について

2021～2022 年度役員選挙の結果を受けて、6 月 2 日（水）に評議員当選者会議を開催し、領域

代表と常設委員会委員長が下記のように内定したことが、鈴木毅彦副会長から報告された。審議の結果、これらの体制が承認された。なお、そのほかの役員や委員については、2021 年度第 1 回評議員会にて決定する予定とされた。

2021～2022 年度 日本第四紀学会役員（会計監査を除く）

会長 鈴木毅彦
副会長 北村晃寿 須貝 俊彦

評議員

領域 1 領域代表 田村 亨
領域幹事 オブラクタ スティーブン フィリップ、久保田好美、加三千宣、坂下 渉、平林頌子

領域 2 領域代表 堀 和明
領域幹事 吾妻 崇、石村大輔、奥野 充、荻谷愛彦、久保純子、佐藤善輝、穴倉正展、丹羽雄一、藤原治

領域 3 領域代表 卜部厚志
領域幹事 青木かおり、岡田 誠、菅沼悠介、長橋良隆、兵頭政幸、水野清秀

領域 4 領域代表 海部陽介
領域幹事 井上 淳、江口誠一、工藤雄一郎、齋藤めぐみ、高原 光、中塚 武、那須浩郎、百原 新

領域 5 領域代表 目代邦康
領域幹事 石原与四郎、植木岳雪、小荒井 衛、前杵英明、三田村宗樹、山田和芳

2021～2022 年度常設委員会・特別委員会委員長

庶務委員会 委員長 水野清秀
会計委員会 委員長 齋藤めぐみ
編集委員会 委員長 荻谷愛彦
広報委員会 委員長 那須浩郎
行事委員会 委員長 工藤雄一郎
渉外委員会 委員長 山田和芳
オンライン委員会 委員長 久保田好美

(5) その他

4 年間の会費長期滞納者を年度末において除籍とすることとし、その名簿が確認された。

◆日本第四紀学会 2020 年度第 11 回執行部会議事録

日 時：2021 年 5 月 24 日（月） 13:00～15:30

方 法：Zoom システムを使ったオンライン会議

出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、高原 光（副会長）、水野清秀（庶務）、齋藤めぐみ（会計）、北村晃寿（編集）、白井正明（広報）、小荒井 衛（渉外）、横山祐典（領域 1）、奥村晃史（領域 2）、里口保文（領域 3）、工藤雄一郎（領域 4）、小森次郎（領域 5）

主な報告事項

(1) 役員選挙による当選者が確定された(会長 1 名、副会長 2 名、評議員 39 名)。当選者には紙面にて当選の連絡を行った。役割分担を決める当選者会議を行うことで調整中である。

(2) 第四紀研究第 60 巻第 2 号（論説 1 編）を 2021 年 4 月 30 日に J-STAGE へ早期公開した。5 月 24 日現在、受理済み原稿（書評を除く）は 2 編(60 巻第 3・4 号に掲載)、手持ち原稿は論説 9 編、

短報 2 編、資料 2 編、講座 1 編である。2021 年 5 月 21 日に新規投稿があった。

(3) 財務省からの令和 3 年 4 月 1 日以降の価格表示の告知に対応するため、第四紀研究の価格を第 2 号から、2,000 円（税抜）を 2,200 円（税込）に修正する。

(4) 福岡大学奥野会員が中心となって進めている遠隔シンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変遷と巨大災害：防災・減災に向けて」（2021 年 7 月 24 日～25 日）を領域 2 の企画として進め、日本第四紀学会共催とすることにした。

主な審議事項

(1) ジオパーク学術支援連合に、日本第四紀学会も参画することにした。

(2) オンライン委員会を特別委員会として 2021 年度から 2 年間設置する提案について議論し、規約を内規としてまとめ、次回執行部会で案を提示することにした。

◆日本第四紀学会 2020 年度第 12 回執行部会議事録

日 時：2021 年 6 月 13 日（日） 10:00～13:00

方 法：Zoom システムを使ったオンライン会議

出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、高原 光（副会長）、水野清秀（庶務）、北村晃寿（編集）、藤原 治（行事）、白井正明（広報）、横山祐典（領域 1）、奥村晃史（領域 2）

主な報告事項

(1) 会計監査を 2021 年 8 月 19 日（木）に春恒社にて行うことにした。

(2) 第四紀研究第 60 巻第 3 号（総説 1 編）と第 4 号（論説 1 編）を 2021 年 6 月 11 日に J-STAGE へ早期公開した。6 月 11 日現在、受理済み原稿（書評を除く）は 2 編（60 巻第 3・4 号に掲載）、手持ち原稿は論説 9 編、短報 2 編、資料 2 編、講座 1 編である。

(3) 2021 年大会参加・発表申し込み数が少ないため、締め切りを延長することを検討中。

(4) 「第四紀通信」28 巻 3 号を発行した。

(5) 地球惑星科学連合大会は、約 5000 人が参加、第四紀セッションは 100 人ほどであった。関連す

るテーマのセッションがバッティングしていたため、次年度はプログラムの調整が必要である。

(6) 6 月 2 日に評議員当選者会議をオンラインにて開催し、各領域の代表、常設委員会委員長は内定した。

主な審議事項

(1) 第四紀研究の電子付録の J-STAGE Data への登載には、CC ライセンスの種類を決める必要があり、改変可能・営利目的では使用しない「CC BY-NC」を選択することを原案として議論したが、再度検討することにした。

(2) 日本学術会議公開シンポジウム「地球環境変動と人間活動（その 2）—地球規模の環境変化にどう対応したらよいか—」（2021 年 12 月 5 日）について、日本第四紀学会として後援することにした。

(3) 文部科学大臣表彰「科学技術賞」、「若手科学者賞」、「研究支援賞」受賞候補者について、日本第四紀学会からの推薦を希望する者の募集を会員 ML にてアナウンスすることにした。

(4) オンライン委員会（特別委員会）を 2021 年度から設置することについて、内規案などを確定

し、第3回評議員会に諮ることにした。
(5) 次期執行部会への引き継ぎで課題となることを検討した。議事録の作成はメンバーの持ち回りでできるか、論文賞などの規程を変更する場合には第1回評議員会に諮る必要があること、総会資料を大会前に余裕をもって作成するためには年度

の切り替え時期を早める必要があること、「第四紀研究」についてはオンライン閲覧と冊子配布を希望者で分けられるか、などが課題として挙げられた。
(6) 第3回評議員会の資料・審議事項について、確認を行った。

.....

★★★ 第四紀学会に情報をお寄せください ★★★

日本第四紀学会では、第四紀通信のほか、メーリングリスト (ML)、ホームページ (HP) を用いて情報発信をしております。メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス (jaqua-koho(at)quaternary.jp) へご投稿ください。

情報発信の手段として、MLの積極的な使用をお願いします。MLへのご投稿についての詳細は、第四紀通信 28 巻 3 号の巻末をご覧ください (下記の通り HP でも閲覧可能です)。第四紀通信には主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報を、HP には主催・後援イベントなどのほか「公募・助成」情報等を掲載します。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。また表紙写真等も募集しています (詳細は第四紀通信 27 巻 6 号の巻末をご覧ください)。

第四紀通信は偶数月 1 日刊行予定としていますが、奇数月下旬には PDF を HP (<http://quaternary.jp>) にアップしていますのでご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176